

Chiba Rosai News

千葉ろうさいニュース

Vol.21

平成31年1月1日



中央検査部特集

目次

2・3

平成31年 新年を迎えて
院長 河野 陽一
事務局 長 澤尻 賢一
看護部 長 青田 孝子

4・5

中央検査部のご紹介
検査科部長 有井 潤子
病理診断科部長 尾崎 大介
中央検査部長 鷲津 正裕

7

連携登録医のご紹介
若宮渡部医院

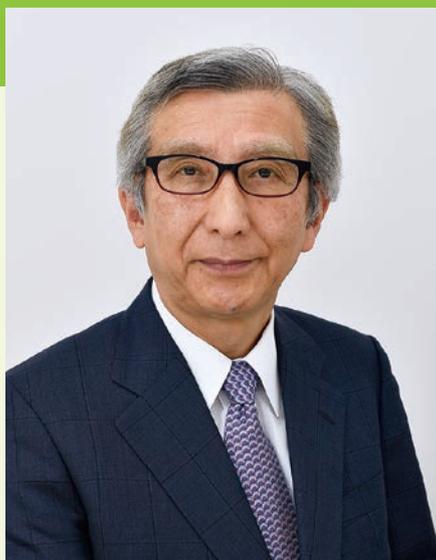
8

当院の理念

6

**市民公開講座
院内コンサートを開催しました**

平成31年 新年を迎えて



この よういち
院長 河野 陽一

診療所・病院や行政と連携しながら 地域の急性期医療を担っていきます

新年明けましておめでとうございます。平成31年の新たな年が始まりました。今年には元号が変わる歴史的な年であり、未来に向けて大きく飛揚する一年になるでしょう。

近い将来に目を向けますと、高齢化が顕著となり人口の減少が確実に進んでいきます。昭和22年（1947年）から昭和24年（1949年）生まれの団塊世代が75歳以上の後期高齢者になるのに続いて、2040年頃には団塊世代ジュニアが高齢者に加わります。高齢者は病気になりやすいだけでなく、複数の病を抱えていることが多く、また生活習慣病など慢性の病気に罹りやすいことも特徴です。そのため入院治療が必要になる頻度も高く、退院後の自宅でのケアも大切になります。

このような地域の医療ニーズの変化に対して、千葉ろうさい病院は、入院治療からの在宅医療・療養へ円滑に移行できるように、医療依存度の高い患者さんを対象に退院後の一定期間訪問看護を行う退院後患者支援を、昨年からは始めました。この他にも千葉ろうさい病院の認知症疾患医療センターは、地域包括支援センターと連携し市原市認知症初期集中支援チームとして活動を進めています。また、治療就労両立支援部は千葉県地域両立支援推進チームに参加し、千葉県における両立支援の拠点病院の一つとして、がん患者の方々が働きながら十分な治療を受けられるように支援を行っています。

皆様が安心して生活するために頼りになる地域の病院として、行政機関や近隣の医療機関とも連携し、今年も全力をあげて市原地域の医療に取り組んでまいります。皆様方からの変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成31年が皆様方に佳い年であることを祈念し新年の挨拶とさせていただきます。

新たな年の始まりは、いつも夢と希望を抱かせます。皆様は今年1年、どのような目標をお持ちでしょうか。昨年を振り返りますと、豪雪に始まり、噴火、地震、さらには豪雨災害や台風被害といった自然災害の大変多い年でした。天災は忘れた頃にやってくると言われますが、備えあれば憂いなしです。

千葉県では、千葉県北西部直下地震（マグニチュード7.3、市原市の最大震度6強）が、今後30年以内に70%以上の確率で発生することが想定されています。自然災害は、いつ、どこで、どのように発生するか予測するのは極めて困難ですが、日頃から落ち着いた行動が取れるように災害時の心構えと備えが必要です。

千葉ろうさい病院が担う役割の1つに災害医療があります。当院は平成29年4月、千葉県より地域災害拠点病院に指定され、災害派遣医療チーム（DMAT）も2チーム保有しています。地域災害拠点病院は、災害発生時には傷病者等の受入や広域医療搬送などの拠点となるほか、自家発電を有し3日分の燃料を確保し、さらには食料、飲料水、医薬品等についても3日分を備蓄しています。他にも地下水を活用するシステムも保有していますので、地域が被災した際には地域の医療機関と連携しながら全力で皆様の命を守るための体制を備えています。

今後も千葉ろうさい病院が、地域に開かれた病院として皆様のご期待に添えるよう努力してまいりますので、これからも変わらぬご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

数年来、「地域完結型医療」の医療・介護連携が求められ、様々な取り組みをおこなってきました。今後さらに医療機関から暮らしの場へと、療養の場も移行が進む中、「どのような健康状態であっても自分らしい生活を送りたい」という、人々の意思を尊重し、実現するための重要な場面へのかかわりがますます増えます。「ときどき入院、ほぼ在宅」が表すように、病院は自宅に戻るため、いつもの生活をするために必要な医療を受ける場所であり、患者さんにとって「非日常」です。そのため私たちは、患者さんに日常の生活に戻っていただくにはどうすればよいのかと考えてきました。「患者さんが地域に戻りその人の望む生活ができるようにするために、退院支援・在宅療養移行支援を院内に定着させる」を意識したシステム作りは徐々にではありますが、現実になってきました。医療の提供とともに人々の「生活の場」を意識した対応には、ますます看護師が自律的に判断する機会が増えています。当院では、入院時あるいはもっと早い入院前の段階から、「患者に寄り添う看護」を実践するため、PFM（入退院・患者支援センター）の開設準備を始め、今年も拡大を意識した取り組みを進めていきます。今まで以上に多職種と協働・連携して切れ目のない地域のニーズに合わせた柔軟な対応を展開していく所存ですので、今後ともご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



事務局長
澤尻 賢一
さわじり けんいち



看護部長
青田 孝子
あおた たかこ

中央検査部

臨床検査科の活動について

医師が病気を診断し治療していくためには、患者さんの体の状態を知らなければなりません。体の状態を知るためには、それにまつわる様々なサインを確認していくことが必要です。この様々なサインを確認するために、医師のオーダーのもとに臨床検査がおこなわれます。

体からでるサインは、様々な形であらわれます。尿や便、あるいは血液や採取された臓器の一部などです。検査を通してこれらのサインを把握し、病気の原因の追求を行うことが、臨床検査の重要な役割となります。臨床検査は病気の診断だけでなく、治療の方針を決める大きな手助けにもなります。治療経過の確認や重症度の判定、回復の度合いなどにも利用されています。

臨床検査部は、このような役割を持った部門です。血液や尿や組織液などの検体を分析する「検体検査分野」と、患者さんと直接接して心電図や脳波、超音波検査、肺機能検査などを行う「生理機能検査分野」の二つから成り立っています。目立ちにくい部門ですが、診断の重要な指標となる検査データを医師に提供し、患者さんと非常に深い関わりを持っています。安全かつ精度の高い検査結果の提供を目指し、医師との連絡も密接に取り合い、患者さんと医師の双方の要望に沿った支援ができるように努めています。

病理診断科について

「病理診断科」をご存知ですか？病理診断科が存在する医療機関は非常に限られています。その上、通常病理診断科は患者さんと会うことはありません。このため、一般の方にはあまりなじみがないかもしれません。当科では患者さんから採取された組織や細胞を肉眼及び顕微鏡で診断を行っています。臨床科では病理診断と臨床情報を併せて患者さんに最も適した治療を進めます。特にがんの治療など侵襲が大きい治療に関わることが多いこともあり、病理診断は必ず日本病理学会・日本専門医機構認定の病理専門医が行っています。病院内で行う他の検査は概ね当日中に結果がわかるのになぜ病理診断は日数がかかるのか？と疑問をお持ちの方もいらっしゃると思います。顕微鏡標本の作製には熟練を要する数多くの手作業の工程があります。病理診断医はそれぞれ臓器に対する専門があり、なるべくその臓器の専門家が診断するほうが精度が上がります。スピードと診断精度はトレードオフの関係にあることをご理解願います。また不幸にして亡くなられた患者さんにはご家族の承諾が頂けた場合は病理解剖を行っています。病理解剖は既に亡くなられたご本人の利益にはなりません。病院の収入にもなりません。ですが生前に行った診断・治療の可否や治療効果などを確認することは医療従事者にとって多くの学びとなり今後の医療に役立ちます。現在私たちが受けられる医療も先人が長年蓄積した莫大な知識・経験のおかげです。未来の患者のより良い医療のため病理解剖にご理解ご協力をお願い申し上げます。なお、病理解剖は脳死・心停止後の臓器提供を行った方も可能です。

近年、人工知能（AI）による画像認識の研究が急速に進んでいます。AIは平成初期に大学で少しばかり手掛けたこともありますが、当時はデジカメすらまだ珍しい時代でAI病理診断はあまりにも遠い目標でした。現在AIは飛躍的に進展し、近い将来人間を追い越すであろうと言われています。いつか来るその時にはAIを適切に運用・管理する業務へ移行し、患者さんがより良い医療を受けられるよう進めてまいります。

中央検査部について

中央検査部は大きく分けて検体検査部門と生理検査部門の2つの部門に分かれます。

検体検査部門は、主に患者さんから採取された血液、尿、臓器に含まれた成分や量、形態を調べることで病気の診断や治療効果を調べる事が出来ます。

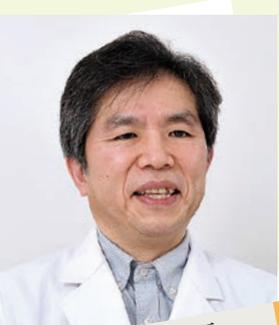
検体検査部門は尿や便などの検体で腎臓の機能や便潜血を検査する「一般検査」、貧血の原因や血液の凝固反応などを調べる「血液検査」、感染の有無や経過を調べる「免疫血清検査」、血液を分離して得られる血清を用いて肝機能や腎機能、脂質等を調べる「生化学検査」、喀痰、尿、血液などを染色、培養し病原菌を特定し抗菌薬利用に役立てる「細菌検査」、安全な輸血が出来るよう血液型の精査や不規則性抗体を検査する「輸血検査」、組織検査や細胞診検査を行い、臨床診断の確定や病期の判定を支援する「病理検査」などがあります。

生理検査部門は患者さんの身体を直接調べる検査で、当院で行っている検査は心電図検査、肺機能検査、脳波検査、超音波検査、ABI等、他にも耳鼻科外来で聴力・平衡機能検査など耳鼻科領域の検査も実施しています。また外来部門の採血業務や糖尿病教室、NST（栄養サポート）、ICT（感染対策）等のチーム医療にも積極的に参加しています。

中央検査部は地域の中核病院である千葉ろうさい病院の診療支援に貢献しています。



検査科部長(小児科部長)
有井 潤子
ありい じゅんこ



病理診断科部長
尾崎 大介
おざき だいすけ



中央検査部長
鷹津 正裕
わしづ まさひろ

のご紹介



生理検査室



細菌検査室



検体検査室・血液



病理検査室



採血室



検体検査室・生化学



市民公開講座のご紹介



当院では年間5回市民公開講座を開催しています。

第3回：平成30年10月13日（土）夢ホール

テーマ：「よくわかるがん治療」

“胃がんの予防と最新の治療について”

宇田川副院長

“がん治療を乗り越えるために

～大事です！抗がん剤治療中のセルフケア～”

米田看護副部長（がん化学療法看護認定看護師）

今回は院外の開催で土曜の午前中にもかかわらず多くの方にご参加いただき皆さん真剣な表情で参加されていました。

第4回：平成30年11月9日（金）当院の大会議室

テーマ：「知って得する！冬の感染症から

身を守る方法～手洗い効果とスキンケア～」

高木皮膚・排泄ケア認定看護師、

橋口感染管理認定看護師

あいにくの雨模様となりましたが、冬のスキンケアについて、日常役立つ情報が満載でした。



おかげさまで千葉ろうさい病院の市民公開講座に毎回多くの方がご参加いただいております。リピーターとして参加の方も多くいらっしゃいます。地域の住民の方が自由に無料で参加ができ、病気や医療に関するさまざまな情報を病院スタッフ等から直接得ていただくイベントです。

今後は、3月8日（金）に当院にて糖尿病をテーマで石渡糖尿病看護認定看護師の講演を予定しています。

わかりやすい市民公開講座を心がけ、院外（主に夢ホール（アリオ市原横）を予定）と院内にて年5回程開催しております。

開催のご案内は、院内の掲示・電光掲示板やホームページ以外に市原市の各支所、市原市図書館などでも引き続きご案内をさせていただきます。

ご協力をいただきましたアンケートのご意見を今後の市民公開講座に活かしていきます。当院の市民公開講座が地域住民の方の恒例行事と認知していただけるよう行っていきます。これからも皆様のご参加をお待ちしております。



院内コンサートを開催しました



平成30年11月8日（木）、ホスピタルストリート2Fにて院内コンサートを開催しました。

皆様がより元気になりますように、心地よいひと時となりますようにと願っております。

☒ 演者 ☒

遠藤陽子（会計窓口）

マーリエリコフラチーム

根元ちなつ（総務課）



マーリエリコフラチームによるフラダンス



一緒に歌ったり、手をたたいたり、思い思いに楽しんでいただきました

連携登録医のご紹介

若宮渡部医院

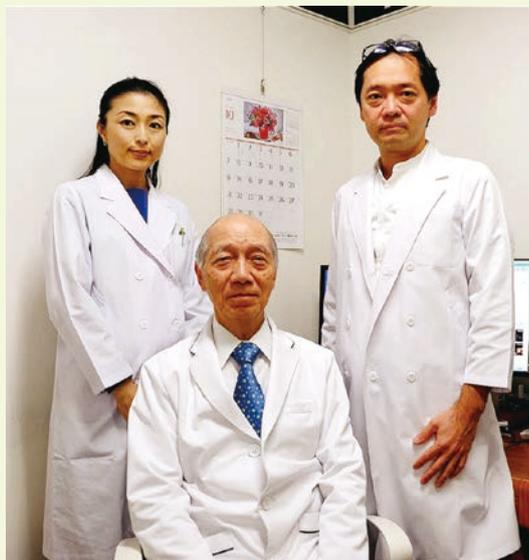
院長

わたべ とくむ
渡部 十九六 先生



新年明けましておめでとう御座います。当院は昭和49年に開業しました。千葉ろうさい病院の先生方には、当院での診療困難な患者さんを、常日頃、沢山お引き受け頂いております事を、この場をお借りして心から御礼申し上げます。また、近年は、労災病院でのCTやMRI検査を、当院からの電話予約にて実施して頂けるので、とても助かっています。検査結果の説明においては、送付して頂いた画像データを当院の電子カルテに取り込むことにより、患者さんに実際の画像をお見せしてお話しすることが出来るので、大変便利であり、こちらも助かっています。

当院は常勤医師3名で診療を行っております。副院長の専門は消化器であり、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医及び指導医の資格を有しています。安全・正確・かつ苦痛の少ない胃カメラ・大腸カメラ検査を実施出来るように心がけています。内科部長の専門は老年病であり、老年病専門医及び漢方専門医の資格を有しており、漢方を含めた診療も行っております。高い診療水準を維持出来るように、引き続き研鑽に努めて参りますので、今後とも宜しくお願い致します。



医師紹介

左より、渡部志保 内科部長、渡部十九六 院長、
渡部宏嗣 副院長

若宮渡部医院

診療案内

〒290-0006 千葉県市原市若宮3-3-16

電話番号 0436-43-0609

ホームページ：watabeiin.web.fc2.com

診療科目 内科 消化器科

診療時間		月	火	水	木	金	土	日・祝
午前	9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	休
午後	2:00~6:00	○	○	○	休	○	休	休

千葉ろうさい病院 理念

基本理念

私たちは、地域の人々、勤労者の方々に高度で安全な医療を提供します。

基本方針

1. 患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療を提供します。
2. 急性期医療・予防医療を担い、基幹病院として地域医療に貢献します。
3. 働く人々の健康を守り、社会復帰を支援します。
4. 豊かな人間性と高い技能を備えた医療人の育成をはかります。
5. 明るく向上心に満ちた職場をつくります。



中庭

千葉ろうさい病院では、12月3日にクリスマスイルミネーションを設置しました。
当院を利用される方々に少しでもクリスマスらしい雰囲気を感じていただけたらと思います。

編集 後記

新年が始まりました。年末年始はいかがお過ごしになられたでしょうか。昨年、ノーベル医学生理学賞を本庶佑さんが受賞されたことは記憶に新しいところです。本庶さんは、記者からのインタビューで座右の銘を「有志竟成（ゆうしきょうせい）」と述べていました。これは、「強い志を持てば目的は必ず達成できる」という意味で、この言葉を研究生生活の支えにしていたそうです。皆様、昨年度の目標は達成できましたか？昨年度達成できなかったとしても、強い志があればいつか必ず達成できる、そのことを本庶さんは教えてくれました。私自身も強い志を持って今年も頑張っていこうと思います。

本年が皆様にとって素晴らしい年となることをお祈り申し上げます。

石井久美子（看護部）